

開催日時：平成25年 **9月11日(水)** 13:15～16:40

(受付12:45～)

入場無料
要申込

第3回

第45回 愛媛県森林林業技術研究発表会

森林技術連携フォーラム inえひめ



主旨・概要

愛媛県農林水産研究所林業研究センター及び独立行政法人森林総合研究所四国支所の研究成果を林業・木材産業にたずさわる皆様に発表し、現場に密着した森林技術の普及・定着につなげます

— 人工林の将来～長伐期施業について考える —



槇峠(奥南川山国有林内)から石鎚山系を臨む



プログラム

13:15～13:35 開会挨拶

13:35～15:20 口頭発表

15:20～15:45 休憩

15:45～16:30 総合討論

16:30～16:40 閉会挨拶

独立行政法人 森林総合研究所
四国支所長 外崎真理雄

- 愛媛県 石川 実 「間伐が遅れた人工林の実態から考える」
四国支所 宮本和樹 「人工林の高齢化・長伐期化へ向けた適切な育林手法を探る」
酒井寿夫 「四国の急傾斜地におけるスギ・ヒノキ人工林の表土の実態について」
佐藤重穂 「人工林の長伐期化による被害リスクの予測」

○別途会場玄関ホールにおいて、ポスター展示

座長：河原孝行(四国支所 産学官連携推進調整監)
パネラー：岡 信一氏(林業家)、竹本康明氏(林業事業体 竹本工業(株))、講演者

愛媛県農林水産研究所林業研究センター長 鋤先 孝一



開催場所・アクセス

久万高原町 産業文化会館

愛媛県上浮穴郡
久万高原町久万188

愛媛・香川・徳島方面から

- バス JR松山駅から落出行き乗車、久万高原下車(約1時間20分)
自動車 松山IC～国道33号(高知方面)(約35分)

高知方面から

- 自動車 国道33号(愛媛方面)(高知県庁前より約2時間20分)



お問い合わせ・お申込み先

お申込み期日 **9月2日(月)**
平成25年

期日までにいずれかの機関にご連絡ください

愛媛県林業研究センター事務局
(愛媛県農林水産研究所 林業研究センター 研究指導室内)

電話(代) **0892-21-2266**

FAX **0892-21-3068**

E-mail: ringyo-cnt@pref.ehime.jp

森林総研四国支所事務局

(独立行政法人森林総合研究所四国支所 連絡調整室内)

電話(代) **088-844-1121**

FAX **088-844-1130**

E-mail: kouho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

主催：独立行政法人森林総合研究所四国支所 愛媛県農林水産研究所林業研究センター

口頭発表要旨

第45回 愛媛県森林林業技術研究発表会

「間伐が遅れた人工林の実態から考える」

愛媛県林業研究センター 主任研究員 石川 実

愛媛県では、スギ・ヒノキ人工林のうち40～60年生の占める比率が高くなり蓄積量も増加し、様々な施策により間伐が推進され、素材生産量増加が期待されています。一方、この林齢の林分には、下刈り後1回程度の間伐で、20年以上も無施業の林分も見られます。このような林分は、蓄積量は増加していますが、高密度で樹冠が枯れ上がり、枯死木や気象被害木も見られ、間伐遅れと思われます。この実態を分析し今後の施業について考えます。



「人工林の高齢化・長伐期化へ向けた適切な育林手法を探る」

四国支所 主任研究員 宮本和樹

人工林の高齢化が進んでいる現状で、木材資源を将来にわたり活用していくためには、現在ある人工林を適切に管理していくことが重要です。しかし、手入れ不足の人工林がそのまま高齢化した場合、はたして生産性の高い人工林ができるのでしょうか？

本発表では高齢人工林(80年生以上)等の事例を紹介し、手入れ不足となっている現在の壮齢人工林(ここでは主に40～60年生)を長伐期に適した人工林へと誘導する手法について議論していきたいと考えています。



「四国の急傾斜地におけるスギ・ヒノキ人工林の表土の実態について」

四国支所 森林生態系変動研究グループ長 酒井寿夫



ヒノキ人工林では、急傾斜地ほど表土の移動量が多くなることが知られています。しかし、それは実際に林業の持続性を脅かすほど大きな影響なのでしょうか？一方、長伐期は表土保全に良いと考えられていますが、その効果はどの程度なのでしょうか？

この発表では、現在、私たちが取り組んでいる調査(様々な林齢・傾斜のスギ・ヒノキ人工林における土壌調査)を紹介しながら現場をよく知るみなさんと議論したいと思います。

「人工林の長伐期化による被害リスクの予測」

四国支所 流域森林保全研究グループ長 佐藤重穂

人工林の長伐期施業は林業経営の重要な選択肢の一つですが、一方、気象害、病虫害、獣害施業による人為的な傷害など、様々な被害を受ける危険性もはらんでいます。特に、材内に生じた傷は林齢の増加に伴って蓄積されるため、被害リスクの増大が懸念されます。

ここでは材質劣化病虫害を例に、林齢と被害発生割合の関係について紹介して、伐期選択を考える条件の一つとして示したいと思います。

